

「地盤工学会誌」 執筆要領

1992.9.1 制 定
1993.4.30 一部改正
1994.2.23 一部改正
1994.9.12 一部改正
1995.6.13 一部改正
1996.6.20 一部改正
2000.3.8 一部改正
2000.4.25 一部改正
2007.1.25 一部改正
2007.11.7 一部改正
2008.3.11 一部改正
2010.2.8 一部改正
2011.3.10 一部改正
2011.11.7 一部改正
2013.3.15 一部改正
2013.10.18 一部改正
2019.8.29 一部改正 (完全電子化に対応)
2020.6.17 一部改正

公益社団法人 地盤工学会
「地盤工学会誌」編集委員会

1. 編集の基本方針

「地盤工学会誌」は、下記を編集の基本方針としています。

- (1) 地盤工学に関わる学術・科学技術の進歩や技術者の資質向上を図ること。
- (2) 地盤工学に関わる学術・科学技術を社会に向けて発信し、啓発を図ること。
- (3) 会員同士ならびに幅広い分野間の情報交流・意見交換を図ること。

このため、「地盤工学会誌」へ執筆される原稿は、読みやすく、会員に直接または間接に何らかの利益になるものであることが必要です。

また、下記のような内容、表現・形式は好ましくありません。

(a) 内容について

- ① 過度の商業主義にわたるもの
- ② 自己宣伝の強いもの
- ③ 単なる個人の興味によって書かれたもの
- ④ 会員の常識をはるかに越える知識を前提とするもの
- ⑤ 個人的な主張が強い内容のもの

(b) 表現・形式について

- ① 文章が難解なもの
- ② 論旨が不明確で、あいまいさの多いもの
- ③ 特殊な用語（数式を含む）が多用されたもの

2. 掲載する原稿の種類

編集委員会では、付表－1の掲載区分に示すように、幅広い内容での投稿を受け付けています。各掲載区分に対して以下の投稿方法があります。

- ① 編集委員会から依頼する原稿（依頼原稿）
- ② あるテーマを設定して編集する特集号で公募文により公募する原稿（公募原稿）
- ③ 随時自由に投稿できる原稿（自由投稿原稿）

（特集号においても、そのテーマに直接関係しない自由投稿による原稿を掲載することがあります。）

なお、投稿原稿は原則として未発表のものに限り、ただし、既発表のものであっても新たな考察や検討が加えられているなど、原稿全体が既発表の著書と極めて酷似していなければよいものとします。また、既発表のものであっても

も編集委員会が有用と認めたものはこの限りではありません。

3. 執筆者の資格

公募原稿、自由投稿原稿の執筆者は、本学会の会員（名誉会員、正会員、学生会員）に限ります。なお、依頼原稿の場合はこの限りではありません。

共著の場合は、共著者のうち1名以上が会員であることを要します。

4. 原稿の提出について

1. の編集の基本方針に沿って、原稿を執筆してください。また、「原稿の作成例」をご参照ください。

地盤工学会誌では、Editorial Manager（以下、EM）を利用しています。最初にユーザー登録をしていただくこととなりますのでご了解ください。なお、執筆者に対してEMの利用料は発生しません。

5. 審 査

審査は、「地盤工学会誌」掲載区分に従い、総合評価、内容評価、表現・形式の3つの視点から行い、掲載の可否を決定します。審査の結果、執筆者に対し、原稿の修正を依頼することがあります。その修正が不可能である場合や、「地盤工学会誌」の編集方針にそぐわない場合は掲載不可とし、返却することがあります。

また、自由投稿原稿については、編集委員会からの修正意見に基づいて検討された原稿を修正依頼日から、3箇月以内に学会へ返送いただけない場合には、投稿原稿を返却させていただくこともあります。

6. 著作権について

「地盤工学会誌」に掲載された著作物の著作権者の権利のうち、当該刊行物の編集にかかわる著作権は地盤工学会に帰属し、個々の執筆部分の著作権と著作者人格権は執筆者に帰属するものとします。なお執筆者は、学会が第三者から複写に関する著作権利用の許諾申請を受けた場合および学会自らが「地盤工学会誌」以外に利用する場合（電子媒体による二次的利用を含む）、これに関する著作権の行使を学会に許諾するものとします。また、これにより学会が著作権使用料等を得た場合は、学会の運営費に充当することを認めるものとします。ただし、執筆者自らが著作権を行使することは妨げません。

7. 原稿料について

編集委員会から依頼した原稿のうち非会員の執筆者については、別に定める規定によって原稿料をお支払いします。

付表－１ 「地盤工学会誌」 登載区分および編集方針

登載区分	頁数	内 容	担当 グループ	編 集 方 針	投稿区分			採 否 判 定
					依 頼	公 募	自 由	
目次	－	簡易目次	事務局 特集記事 グループ	○本誌の内容がわかる程度のもので良い。 ○各記事の担当委員を明記する。 ○特集の趣旨（特集記事グループ）	－	－	－	－
総説	4 程度	◎地盤工学のある分野についての現況報告、将来展望、問題提起、解説等について、総括的な内容のもの。 ◎特集の序論・総括的な内容のものを含む。	特集記事 グループ	○特集号はテーマに沿った内容のものを登載する。 ○原稿概要または原稿および目次を総説執筆者に送付し、執筆の参考資料としていただく。	○	×	×	有
論説	4 程度	◎地盤工学のある分野についての現況報告、将来展望、問題提起、解説など。 ◎地盤工学全体についての基本的な問題、展望など。 ◎他分野または関連分野からの地盤工学に対する発言、要望など。 ◎地盤工学と関連する社会問題についての発言など。	特集記事 グループ 一般記事 グループ	○自由投稿原稿の区分を会誌に明示する。 ○特集の公募原稿の受付に際しては、特集趣旨に合致したものとするため事前に概要の提出を求める。	○	○	○	有
報告	4 程度	◎地盤工学全分野および関連分野にかかわる理論、実験および工事などで、新しい発想・工夫など広く会員に参考となるもの。 ◎地盤工学にかかわり、それぞれの目的に応じ創意工夫されたユニークな機能・機構を有する技術（試験装置、試験方法、解析システムなど）、材料および工法等で既存の技術に改良を加えたもの。 ◎地盤工学の基本的な問題等への具体的な取組み事例や、地盤工学と関連する社会問題等についての具体的な取組み事例等を報告しており、広く会員に参考となるもの。	特集記事 グループ 一般記事 グループ	○自由投稿原稿の区分を会誌に明示する。 ○特集の公募原稿の受付に際しては、特集趣旨に合致したものとするため事前に概要の提出を求める。	○	○	○	有
速報	2 程度	◎事故・災害報告など時宜を得た内容。 ◎事故・災害に関連した復旧報告、耐震設計・施工、耐震診断・補強など実務例の報告。	一般記事 グループ	○速報性を重視する。 ○自由投稿原稿の区分を会誌に明示する。	○	－	○	有
座談会、 インタビュー	4 程度	◎特集号に関するテーマ、会員の関心の高いテーマ、講座の終了などに当たって開催した各種の座談会・インタビューをまとめたもの。 ◎地盤工学会が主催するものに限る。	特集記事 グループ 一般記事 グループ 講座グループ		○	×	×	－
技術紹介	2 程度	◎教育、技術関連の記事など。 ◎特別会員等の会員組織が有している技術など。	一般記事 グループ		○	－	○	有
寄稿 (会員の声)	2 程度	◎地盤工学全体に対する基本的な問題提起・提言など。 ◎他分野または関連分野からの地盤工学に対する発言、要望など。 ◎地盤工学と関連する社会問題についての発言など。 ◎総説、論説、報告、資料、講座などについての意見、討論、回答など。 ◎地盤工学に携わる会員の貴重な体験談、裏話など。 ◎若手会員からの声や若手会員向けの情報。例えば、学生の現場実習体験談、現場見学、研究室・実験室・職場訪問、日本人・外国人の留学記、若手会員や女性・女子学生の自由な意見、留学生向けの情報など。	一般記事 グループ	○内容に重大な誤り、内容が理解できないものおよび他人を誹謗したものなど、学会誌としてふさわしくないもの以外は登載するようにする。 ○広く建設的かつ公正な意見が望ましい。 ○若手会員に関わる記事は型にはまったものとしな	○	－	○	有
学会の 動き	2 程度	◎地盤工学会賞、総会報告、各部活動報告、シンポジウム、委員会開催報告などの学会活動を会員に報告する内容のもの。 ◎支部日より、支部の活動など。 ◎年頭のあいさつ。 ◎地盤工学会基準の改訂、制定など。	各委員会 事務局	○「年頭のあいさつ」は1月号冒頭に掲載する。 ○委員長・副委員長による審査のみ。	○	－	○	－
国内外の 動き	2 程度	◎国内外で行われる工事計画・着工・完成などのニュース。 ◎国内外の地盤工学関係のニュース。 ◎国内外の基準類の制定、改訂のニュース。 ◎国内外の会議、受賞のニュース。 ◎追悼文。	事務局 一般記事 グループ	○依頼による追悼文は「学会関係者に対する慶弔その他取扱内規」に従い、委員長・副委員長による審査のみ。	○	－	○	有
技術手帳	1 用語 2 程度	地盤工学分野で用いられている専門用語のうち、 ◎定義が重複している、一般の知識がまちまちであるなど、不明瞭である用語の解説。 ◎類似の言葉や、まぎらわしい内容、難解で専門的すぎる用語の解説。 ◎そのほか、専門用語の解説。	講座グループ	○用語の意味する本来的な内容を工学的・歴史的背景よりその語源をひもとき、現状での定義が可能であればこれを明瞭に示す。 ○用語の正しい意味あいを具体的な事象面より解説し、理解を深める。 ○類似の用語あるいは関連ある用語についても、理解を深める上で必要であれば相違点・関連性を具体的に解説する。 ○実務に役立てるよう、利用例・実例を挙げて定量的な把握の理解に努める。	○	－	×	－

登載区分	頁数	内 容	担当 グループ	編 集 方 針	投稿区分			採 否 判 定
					依 頼	公 募	自 由	
講座	1 講座 52 程度	◎初～中級者向け講習会や入門書の内容，設計法の解説，簡単な設計計算例など。 ◎地盤工学に関連する最新の話題。 ◎地盤工学における新しい事項(まだ教科書的にまとめられていないが，論文としては既に発表されている事項など)。 ◎地盤工学に関する未解明な問題(どこまで解明され，どのようなことが未解明であるかの整理と解説)。 ◎地盤工学の周辺領域の問題。 ◎各種委員会で取り組まれた内容およびその成果。 ◎既に各種の教科書において解説されている内容を異なった観点から再整理したもの。 ◎その他，会員の多くが関心をもっている話題。	講座グループ	○著者自身の調査研究による新しい事項だけを記述しないようにする。 ○個人的な意見であっても客観的内容であれば，「個人的意見」と明記のうえで記述しても良い。 ○分かりやすい内容であるための，書かれている事実の必要要件として以下を満たすこと。 ①記述されている事実の適用範囲が明確であり，必要に応じて追体験・追試ができること。 ②事実の記述は具体的で理論的であること。 ③事実そのものとその考察は，明確に分けて表現されていること。 ④記述されている事実の工学的な有用性・応用性・発展性などが説明されていること。	○	－	×	－
書籍紹介	0.5 程度	◎学会に寄贈された内外の新刊書。 ◎世界的名著のうち，会員に有益である書籍の紹介。 ◎地盤工学に関連する雑誌，寄贈資料，工事誌の紹介。	一般記事グループ	○原則として学会に寄贈された書籍とする。	○	－	○	有

(注 1) この原則からはずれる場合は，運営委員会に諮らねばならない。

(注 2) 投稿区分 ○：可，×：否，－：該当なし。